



〈公開〉生と死の物語Ⅱ

□会場 東洋英和女学院大学大学院
(六本木) 201教室
東京都港区六本木5-14-40

□最寄駅 六本木駅(日比谷線徒歩10分)
麻布十番駅(大江戸線徒歩5分、南北線徒歩7分)
□先着 100名様 □事前申込み 不要

□参加費 各回500円
(ただし、本学院在校生・教職員と
生涯学習センター受講生は無料)

第5回連続講座

7月21日(土)
14:40-16:10(受付14:10~)

■プロフィール

東北大学大学院教育学研究科博士課程修了 博士(教育学) 非常勤講師として、慶應義塾大学、東京学芸大学、東京首都大学等で教育学、教育哲学等の授業を担当。教員養成系の教員を経て2016年度より現職。学部では教職に関する科目も担当。

■主要業績

『ワークで学ぶ教育課程論』ナカニシヤ出版、2018。『教育思想事典』勁草書房、2017。『あなたと創る教育心理学』ナカニシヤ出版、2017。『ワークで学ぶ道徳教育』ナカニシヤ出版、2016。『「甘え」と「自律」の教育学』世織書房、2015。

尾崎博美

(おざき ひろみ) 本学人間科学部准教授

命の価値を教える・学ぶ実践を問う —「わかる」ことのも層性に基ついて—

内容紹介：

子どもたちはどのようにして「生」と「死」を学ぶのでしょうか。また、子どもたちに「命」について「教える」とはどのようなことを意味するのでしょうか。そもそも、人間の「生」や「死」を「教える」ということは可能なのでしょうか。時代の移り変わりの中で、「生」「死」「命」に関する人間の「教える—学ぶ」の捉え方や実践は大きく変わります。現代の子どもたちが、命の価値を身につける上でどのような課題があるのか、またそうした中で社会や大人は子どもたちに何を伝える必要があるのか、「わかる」ことのも層性をキーワードに、学校の授業実践や教育哲学の視点から考えてみたいと思います。

第6回連続講座

7月21日(土)
16:20-17:50

■プロフィール

東京大学大学院人文社会系研究科後期課程単位取得退学。日本学術振興会特別研究員、立教大学非常勤講師、東京理科大学非常勤講師、一般企業での実務経験などを経て2017年より現職。専門はルネサンス期の哲学、科学、宗教思想、魔術思想など。

■主要業績

「ピコ・デラ・ミランダにおけるプラトン主義理解とその影響」新プラトン主義協会編『新プラトン主義研究』第8号、2009。「フィチーノの占星医学におけるスピリトゥス概念の意味」鶴岡賀雄・深澤英隆編『スピリチュアリティの宗教史』下巻、リトン、2012。「西洋占星術に見る人の生死と運命」『死生学年報2018』リトン、2018。

比留間亮平

(ひるまりょうへい) 本学非常勤講師

生まれ変わりとしてのルネサンス —歴史家ミシュレの死生観とルネサンス概念の誕生—

内容紹介：

ルネサンスとは再生、新生を意味するフランス語に由来する歴史概念で、今日では中世と近代との間をつなぐ時代区分として広く認められています。この概念を最初に生み出した一人にジュール・ミシュレというフランスの歴史家がありますが、彼は死んだ人間の生まれ変わりを強く信じ、実際に妻の墓を掘り起こすなどした特異な死生観を持った人物でした。今回の講座では、まずルネサンスという時代について簡単に解説したあと、ミシュレの個人的体験からどのようにルネサンスという概念が着想されたのかを見ていきます。それによって死生観という極めて主観的な事柄を学問的、客観的なものに移し替えるということの意味や問題を考えていきたいと思っています。

〈予告〉10月6日(土) シンポジウム「諸宗教の死生観と看取りの実践Ⅱ」

神 仁 「臨床仏教師の役割—仏教チャプレンとしての支援と看取り—」

白木原嘉彦 「天理教の死生観と看取り」

サック・キャロル「音楽による祈り」(※発題者はリラ・プレカリア[祈りの豎琴]の創始者)

お問合せ先

東洋英和女学院大学死生学研究所
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp
03-3583-4035 (fax専用)